

# まちづくり事例 ー身近なまちづくりの取り組みー

- ① 東海道川崎宿 ー歴史を活かしたまちづくり！
- ② 川崎大師周辺 ー地域全体で盛り上げよう！
- ③ ニヶ領用水と久地円筒分水
- ④ 名前もみんな決めました 鷺沼ふれあい広場
- ⑤ まちはみんなの活動場所 ー五反田自治会
- ⑥ 災害に強いまちへ ー防災まちづくりの取組



## ①東海道川崎宿 ー歴史を活かしたまちづくり！

江戸時代東海道には五十三の宿場がありました。そのひとつが1623年につくられた川崎宿です。お江戸日本橋をスタートして、品川宿の次、多摩川（当時は六郷川と呼ばれていました）を船で渡れば川崎宿。

2023年に川崎宿は誕生して400年を迎えました。その文化と歴史をまちづくりに活かそうと、地元企業や市民団体などで構成される「川崎宿起立400年プロジェクト推進会議」で、まちなみの整備やイベントの開催などに取り組んでいます。



かわさきしょうがっこうせいもん  
川崎小学校正門

川崎宿という歴史的資源を再確認し、愛着と誇りを深めるイベントとして、「東海道川崎宿場まつり」を開催しています。川崎宿が発祥と言われる三角おむすびのレシピコンテストやミニ歴史ガイドツアーなどが行われています。

また、東海道沿いに松の木や史跡案内板、浮世絵マンホールの設置、街路灯に行灯のような中間灯を設置して宿場らしさを彩るなど、景観づくりを進めています。



えんどう  
東海道沿道に設置されている7基の浮世絵マンホール



いさご こうさてん  
砂子の交差点に設置された松の木と石柱



中間灯



東海道沿道に設置された100基を超える中間灯には10種類の浮世絵がデザインされている

多くの人たちに来てもらって、まちを元気にしようがんばっているのは「かわさき歴史ガイド協会」です。  
川崎宿・川崎大師周辺を中心にいろいろな史跡を案内してくれます。  
地域の歴史をより理解するため、身近な地域に残されている昔の街道や史跡、景観などを調査見学することを目的とした総合学習にガイドを依頼する小学校が増えています。  
京急線川崎大師駅前にある川崎大師観光案内センターや、2013年にオープンした東海道かわさき宿交流館でもガイド協会のメンバーが川崎大師や川崎宿のことをやさしく説明したり質問に答えたりしています。

## 東海道かわさき宿交流館

川崎宿の歴史・文化を学び、それを後世に伝え、地域活動・地域交流の拠点となることを目指して開館しました。  
「川崎宿起立400年プロジェクト推進会議」の拠点としても活用され、川崎の魅力の発信や、まちづくりの取組を推進しています。



## ②川崎大師周辺 一地域全体で盛り上げよう！

川崎大師周辺の地域では、歴史的に有名な史跡や名所が数多くあります。  
史跡等を活かして、歴史に関するクイズを解きながら、大師周辺地域の名所を巡る「かわさき大師ウォークラリー」を開催しています。大師地区の歴史を学ぶことで地元へ愛着と誇りを持ってもらうとともに、地区内外の人に大師を知ってもらう機会となっています。



## ③二ヶ領用水と久地円筒分水

高津区の貴重な歴史的資産であり、市民の憩いの場でもある二ヶ領用水と久地円筒分水。ここには、先人たちの汗と知恵が詰まっています。  
久地円筒分水は、二ヶ領用水の要の施設で、1941年、周辺の農地への水の分配を、田の面積に合わせて公平に行うため、当時の最先端の技術で建設され、国の登録有形文化財に指定されています。現在では、円筒分水などを大切に作る人たちの手により、毎月掃除が行われるとともに、春の「円筒分水スプリングフェスタ」には琴の演奏とお茶を飲みながらのお花見会、夏の区民祭ではボートによる川下りなどが行われています。



さくらさ  
桜咲く円筒分水



しゃくはち えんそうかい  
琴と尺八の演奏会



## ④名前もみんな決めてました

## さぎぬま 鷺沼ふれあい広場

2006年4月、プールが、<sup>つちばし</sup>土橋小学校、<sup>しせつ</sup>鷺沼ふれあい広場、フットサル施設「フロントウンさぎぬま」、さぎ沼なごみ<sup>ほいくえん</sup>保育園に生まれ変わりました。

そのひとつ、鷺沼ふれあい広場は、<sup>りよう</sup>利用する人みんなに親しまれるような広場にするために、<sup>しみん</sup>市民のみなさんと<sup>かわさきし</sup>川崎市が<sup>いっしょ</sup>一緒に考えてきました。「鷺沼ふれあい広場」という名前も、<sup>ほしゅう</sup>市民のみなさんから募集して、<sup>いご</sup>みんなの憩いの場となることを願って決められた名前です。

広場づくりに<sup>かんしん</sup>関心を持った市民のみなさんが<sup>あつ</sup>集まって<sup>いいんかい</sup>委員会をつくり、<sup>はじ</sup>広場づくりが始まりました。広場を4つに分け、<sup>げんち</sup>グループごとに<sup>ちようさ</sup>現地を調査したり、<sup>きほんてき</sup>アイデアを出し合って、<sup>きほんてき</sup>広場づくりの基本的な考え方を決めたりしました。<sup>つぎ</sup>次に、<sup>いけんこうかん</sup>意見交換の場をつくり、<sup>ないよう</sup>いろいろな人たちの意見も聞きながら、<sup>しゅうせい</sup>内容を修正し、<sup>さいしゅうてき</sup>最終的な考え方をまとめました。そして、川崎市は、<sup>と</sup>市民のみなさんの意見を取り入れて、鷺沼ふれあい広場をつくり、<sup>かんせい</sup>完成させました。

### <sup>かだん</sup>花壇づくりから始めよう！<sup>みやまえ</sup>—宮前ガーデニングクラブ—

「花いっぱいくのきれいなまちにしたい。つながりを広げてみんなが暮らしやすいまちにしたい。」3人の区民が、その願いを<sup>ねが</sup>実現するために、<sup>じつげん</sup>活動を<sup>かつどう</sup>始めました。

まず取りかかったのは、<sup>みやまえ</sup>宮前平駅から<sup>みやまえ</sup>宮前区役所に向かう長い坂の途中にある、<sup>さか</sup>ポケットパークに花を植える花壇づくりです。花壇づくりをしていると「きれいになりましたね、ありがとう。」と声をかけられるようになり、<sup>どうぐ</sup>だんだんと<sup>か</sup>道具を貸してくれる人や<sup>なかま</sup>仲間に入る人も増え、<sup>ふ</sup>活動の輪が広がっていきました。今ではたくさんの人たちの<sup>きょうりよく</sup>協力を受けながら、<sup>くない</sup>区内の花壇を<sup>かんり</sup>管理しています。小学校の総合的な学習の時間で植物とふれあったりする<sup>そうごうてき</sup>青空教室も<sup>がくしゅう</sup>行っています。

## ⑤ まちはみんなの活動場所 かつどうばしよ 一五反田自治会 ごたんだじちかい

五反田自治会の活動は、道に伸び放題で街灯まで覆っていた3本の木をみんなで協力して切り、花壇をつくったことから始まりました。四季折々の花を植えると、通る人たちが花壇を見ながら歩くようになりました。また、花と一緒にまちの歴史や出来事を知ってもらおうと、花壇に掲示板を立てると、立ち止まって見る人が増えました。そこで話をしながら休憩できるベンチをつくり、声をかけあう輪が広がり、次々に新しい活動が生まれたのです。

一方、落書きが絶えず、怖い雰囲気になっていた生田大橋の下のトンネル。大学生と三田子ども文化センター、五反田自治会、川崎市が協力して落書きを消し、「わたしたちが見た・思う生田のまち」の絵をこどもたちが描いて飾ったところ、落書きはなくなりました。



# ⑥ 災害に強いまちへ — 防災まちづくりの取組

川崎市では「防災まちづくり」という地域の防災活動の支援を行っています。防災の専門家と市の職員が町内会の防災活動に参加して、住民の方たちと話し合いながら、地域にあった様々な防災活動を進めています。



## 防災まち歩き — 二子第二町会など

防災まち歩きは、普段歩き慣れている自分の町を「防災」という視点で改めて歩くことによって、地域の資源や課題を発見する取組です。過去の災害、地域の歴史、最近の地域のことなど参加された方どうしで楽しくお話ししているうちに意外な発見があるのもこの取組の魅力です。実施後は発見したことを地図にかいて、地域の方にもお知らせします。



## 安否確認訓練 — 諏訪第二町会など

安否確認訓練は災害時にわが家が無事であることを知らせるため、黄色いタオルなどの目印を、外から見えるところに掲げる訓練です。一目で安全かどうか分かるので、被害があった家庭の救助をすばやく行うことができます。目印を外に掲げるだけなので、誰でも参加しやすく、訓練による訪問をきっかけに人と人とのつながりづくりにも役に立つ取組です。



## 要援護者支援 — 観音町内会

災害時に支援が必要な方に対して、町会だけでなく地域全体で見守っていく体制づくりを一緒に考えていく取組です。いざという時に避難したかどうか顔が浮かぶのは、名前だけ知っている人ではなく、普段から関わりのある人だけです。お互いを助け合えるよう、訪問や聞き取りを通して、地域の交流やつながりづくりを行います。





# マイタイムライン・マイ避難ルート — 中丸子中・南町町内会など

自宅の災害リスクの確認から、一人一人に合った避難方法をつくる取組です。災害に備えて、時間経過とともに自分の行動計画であるマイタイムラインだけでなく、地図上に自宅から逃げられる場所までの安全なルート、マイ避難ルートをつくります。参加した地域の人どうしがお話ししながら、お互いのルートを確認するので、地域で起こった災害の情報交換にもつながっています。

## 〇〇町内会 マイ避難ルート（風水害）【記載例】

令和4年〇〇町内会の防災まちづくり  
氏名：川崎 中丸子 作成日：4.3.10



### 凡例

- 避難場所
- 広域避難場所
- 公園
- 幅員4m未満道路
- 防災倉庫
- アンダーパス、地下通路
- 過去の災害での被害箇所

**洪水浸水想定区域 (多摩川水系)**

5m	2層の建物以上が浸水
3-5m	2層の建物までつかる程度
0.5-3m	1層の軒下までつかる程度
-0.5m	大人の膝までつかる程度

**内水浸水想定区域** 想定される浸水深

**家屋倒壊等氾濫想定区域 (氾濫流)**

多摩川が氾濫した場合に、標準的な木造家屋の流失・倒壊等の危険性がある区域

### 1 マップから自宅周辺の災害リスクを確認しましょう

**自宅周辺の浸水深さ**  
洪水 (多摩川, 0.5-3m) 内水氾濫 (多摩川, 0m)

**浸水リスク**  
浸水継続時間 (24時間) 浸水時間は別紙のハザードマップで確認  
 家屋倒壊等氾濫想定区域

**土砂災害リスク**  
 土砂災害警戒区域  
 土砂災害特別警戒区域  
 急傾斜地崩壊警戒区域

**自宅の状況**  
階建て / あなたの部屋 2階  
築 20年 / 木・RC・S 構造

**共通**  
浸水深さより自宅の居室の方が  
洪水の場合 (高い・低い) / 内水の場合 (高い・低い)

**2 情報収集**

- 川崎市防災ポータルサイト (川崎市HP)
- 川の様子に関するリアルタイム情報

**〇〇地区の災害について**

〇〇地区は多摩川に近いので、風水害の影響を受けやすい地域となっています。玉川小学校の周辺は内水氾濫の範囲が広いので、はやめに避難するか、もしくは玉川中学校への避難が必要です。また、家屋倒壊氾濫想定区域では、木造家屋は家ごと流される危険性があります。

**避難のポイント**

避難場所に行くことだけが避難ではありません。いざ災害が起こったとき、無理な移動は命の危険に繋がります。親戚や知人の家、近隣の高いマンション等に避難することも視野に入れて日頃から家族で避難行動について確認しておきましょう。

### 6 避難ルート書きましょう

自宅から避難場所までのルートを地図に書き込みます。平時に使う道や、災害の種類に応じた安全なルートを考えましょう。

Step1	Step2	Step3
普段使う避難所までのルート	内水氾濫のおそれがあるとき	洪水のおそれがあるとき
避難場所	避難場所	避難場所
所要時間	所要時間	所要時間
玉川小学校	玉川中学校	自宅が隣のマンション
15分	10分	10分

# まちづくり事例 一川崎市のまちづくりの取り組み一

- ① 川崎駅周辺
- ② 新川崎駅周辺
- ③ 武蔵小杉駅周辺
- ④ 等々力緑地
- ⑤ 登戸土地区画整理事業
- ⑥ 武蔵溝ノ口駅・溝の口駅周辺
- ⑦ 新百合ヶ丘駅周辺

## ①川崎駅周辺

約30年の間に川崎駅の様子はずいぶん変わっています。1984年ごろの写真では、駅の西側は大きな工場を中心としたまちでしたが、現在の写真では工場がなくなって、商業ビルや「ミュージア川崎シンフォニーホール」を中心として高層マンションが建つまちに変わっています。





しんかわさきえきしゅうへん  
②新川崎駅周辺

1983年ごろまでは貨物の列車などが止まるとても広い場所でしたが、現在では道路、公園、バスやタクシーがとまる交通広場などが整備されています。また、研究所、住宅や商業施設が建ち並び、「新しいまち」ができました。



1983年と2014年の様子



現在の新川崎駅周辺の様子



### ③ 武蔵小杉駅周辺

武蔵小杉駅周辺地区では、民間の会社と市が協力しながら、研究開発ビル、住宅、商業施設などをつくる再開発が進んでいます。再開発のためには、地域全体をいくつかの地区に分けて、どこにどんな道路や建物をつくるか長い目で見て計画をたてます。

武蔵小杉駅周辺地区では、みんなが安全で豊かな生活ができるように、道路を広くしたり、木や花を植えたりする広場や歩行空間などを整備しています。

このようにして、昔は工場やグラウンドだった場所に多くの人に住むようになったため、「特定非営利活動法人小杉駅周辺エリアマネジメント」が誕生し、イベントや清掃活動など、自らがまちを育むためのさまざまな活動を行っています。

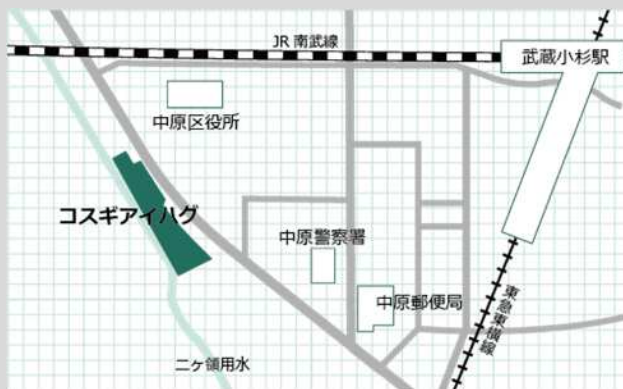


#### 総合自治会館跡地等の活用 —KOSUGI iHUG (コスギ アイハグ)

2023年3月、武蔵小杉駅近くの総合自治会館の跡地に「農・食・健康」をテーマとした複合施設「コスギ アイハグ」が誕生しました。

元々建っていた総合自治会館が古くなって別の場所に移ることが決まりました。跡地は、駅に近く、二ヶ領用水に接する場所にあるため、立地を生かした活用を検討することになりました。

周辺には新しく高層マンションが建ち並び、新しく来た人たちと昔から住んでいた人たちの交流の拠点や、災害時の一時避難場所、そして二ヶ領用水に接する立地を生かした緑豊かな居心地の良い空間づくりが求められていました。地元の商店街や町内会等の地域の人たちと何度も意見交換を行いながら、川崎市と民間企業が連携・協力し、約10年の歳月をかけて、新しいコミュニティスペースが誕生しました。



KOSUGI iHUG (コスギ アイハグ) の名前の由来は「集まる」、「憩う」、「育む」。これらの頭文字をつなぎ合わせて「ア・イ・ハグ」と名付けられました。さらに「iHUG (抱きしめる)」という意味を加え、多彩なコミュニティを育む場でありたいという思いも込められています。

## とどろきりよくち ④等々力緑地

かわさきし りよくち いち りくじょうきょうぎじょう しょうわ ねんど かいせつ  
川崎市3大公園緑地のひとつ、等々力緑地に位置する等々力陸上競技場は、昭和41年度に開設し、日ごろから、  
市内小中学生・高校生の陸上競技大会が開催されるとともに、Jリーグ川崎フロンターレのホームスタジアムと  
して使用されているほか、ゴールデンランプリなど公認陸上競技場として使用されています。

しせつきぼ かんせん かんきょう かいちくこうじ へいせい かんせい  
施設規模を大きくし、観戦しやすい環境にするため、メインスタンドの改築工事を行い、平成27年に完成し  
ました。様々な省エネ技術や防災設備を採用し、環境にやさしいスタジアムができました。

しょうかい  
環境にやさしい様々な省エネ技術から、次の3つの技術について紹介します。

### たいようこうはつでん ① 太陽光発電

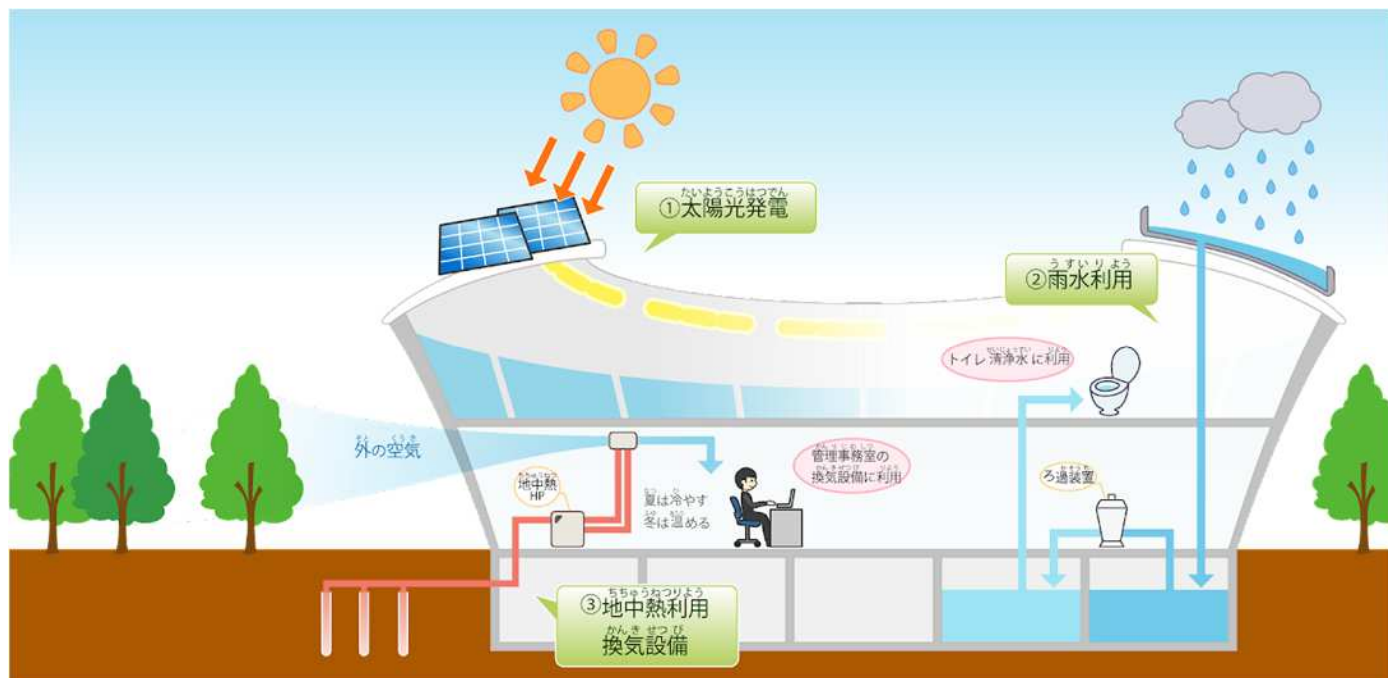
やね きろわつと せつび せっち にちじょうてき  
屋根に150kW分の太陽光発電設備が設置され、日常的な電気をまかなっています。

### りよう ② 雨水利用

ふ すいそう た せんじょうすい  
屋根に降った雨を地下の水槽に貯めて、トイレの洗浄水として利用しています。

### ちちゅうねつ れいだんぼう ③ 地中熱利用冷暖房

いっついおんど じむしょ こうちょう  
地中は通年で一定温度であるため、事務所は地中熱を利用して空調を行っています。





# ⑤新しく生まれ変わるまち — 登戸土地区画整理事業

のぼりとえき むこうがおかゆうえんえき しゅうへん ちいき むかし つくいみち そ のぼりととちくかくせいりじぎょう たまく  
登戸駅と向ヶ丘遊園駅の周辺の地域は、昔の津久井道沿いにできたまちで、区役所や図書館などもある多摩区の  
ちく せま きゅうきゅうしゃしょうぼうしゃ  
中心地区です。しかし、古くからのまちなので、道は狭く、救急車や消防車も通れませんでした。そこで、19  
かわさきし  
88年に川崎市は土地区画整理事業でまちづくりをすることにしました。

げんざい こうじちゅう しょうらい か  
現在は工事中ですが、将来はきっとさらにきれいなすばらしいまちに生まれ変わります。

きょうりよく  
土地区画整理事業では、みんなで協力して、広くてまっすぐな道や大きい公園をつくれます。広い道や大きい  
あんぜん  
公園ができると、安全なまちになりますね。



土地区画整理前



土地区画整理後

## ⑥ 武蔵溝ノ口駅・溝の口駅周辺

以前の駅前には電車（いぜん）の乗りかえる人やバス、タクシーに乗る人、買い物（もの）をする人などでごった返（がえ）してました。朝夕には、道路（どうろ）は車と人であふれ、危険（きけん）な状態（じょうたい）でした。建物（たてもの）も古くなり、建替（ひつよう）えが必要（ひつよう）になりました。そこで、地域（ちいき）の人たちと市役所（しやくしょ）の人で協力（きょうりょく）し、まちの整備（せいび）計画（けいかく）をつくり、再開（さいかい）発（はつ）をすることになりました。



以前の武蔵溝ノ口駅周辺の街（まち）なみ

再開（こうじ）発（はつ）の工事（こうじ）では、昔（むかし）からその場所（ばしょ）で暮（く）らしていた人（ひと）や商売（しょうばい）をしていた人（ひと）たちは、今（いま）までの住（す）まいやお店（みせ）から他（ほか）に移（うつ）らなければならなりません。新（あたら）しに移（うつ）る場所（ばしょ）を探（さが）すことも大（たい）変（へん）ですし、みんなの意（い）見（けん）がま（ま）とま（ま）らなく（なく）ては工（こう）事（じ）は進（すす）みま（ま）せん。全（ぜん）ての工（こう）事（じ）が完（かん）成（せい）するま（ま）でに、40年（ねん）近（か）くの年（ねん）月（げつ）が流（なが）れました。

### みんなが名（な）付（つ）け親（おや）！「キラリデッキ」

再開（こうじ）発（はつ）によ（よ）って、新（あたら）しにデ（デ）ッキ（ッキ）が生（な）ま（ま）れま（ま）した。2つの駅（えき）と再開（こうじ）発（はつ）で（で）き（き）たビ（ビ）ル（ル）、タクシ（タクシ）ー（ー）乗（の）り場（ば）、バ（バ）ス（ス）停（てい）、商店街（しょうてんがい）な（な）ど（ど）を（を）結（むす）び、人（ひと）々（々）が安（あん）心（しん）して楽（たの）しく歩（あ）ける空（くう）間（かん）とな（な）って（て）いま（いま）す。

利用（りよう）する皆（みな）さん（さん）に親（お）し（し）み（み）を持（も）っ（つ）て使（つか）っ（つ）てもら（もら）いた（いた）いと、デ（デ）ッキ（ッキ）の（の）名（な）前（まえ）を（を）募（ぼ）集（じゅう）し、ワ（ワ）ー（ー）ク（ク）シ（シ）ョ（ョ）ッ（ッ）プ（プ）も（も）行（い）っ（つ）て決（け）定（てい）し（し）ま（ま）した。

ワ（ワ）ー（ー）ク（ク）シ（シ）ョ（ョ）ッ（ッ）プ（プ）で（で）は、溝（みぞ）口（くち）の（の）ま（ま）ち（ち）の（の）イ（イ）メ（メ）ー（ー）ジ（ジ）や（や）デ（デ）ッキ（ッキ）の（の）色（いろ）や（や）形（かたち）から連（れん）想（そう）する言（こと）ば（ば）を探（さが）すこと（こと）から始（は）め（め）、募（ぼ）集（じゅう）し（し）て出（で）さ（さ）れた（た）個（こ）人（じん）案（あん）41案（あん）と当（たう）日（にち）み（み）ん（ん）な（な）で（で）考（こう）え（え）た（た）17案（あん）の中（なか）から話（わ）し（し）合（あ）い（い）や（や）投（とう）票（ひょう）を（を）行（い）い、**「キラリデッキ」**に（に）決（け）ま（ま）り（り）ま（ま）した（た）。



再開（こうじ）発（はつ）で（で）完（かん）成（せい）し（し）た（た）ビ（ビ）ル（ル）**「ノクティ」**



ワ（ワ）ー（ー）ク（ク）シ（シ）ョ（ョ）ッ（ッ）プ（プ）の（の）様（よう）子（す）

### おもしろ（おもしろ）き（き）ぎ（ぎ）ょう（よう） 面白（おもしろ）もの（もの）づ（づ）くり（くり）企（企）業（ぎやう）！

昭（しょう）和（わ）初（し）期（き）、南（なん）武（ぶ）線（せん）と田（でん）園（えん）都（と）市（し）線（せん）が交（ま）わる交（こう）通（つう）の（の）便（べん）の（の）良（よ）さ（さ）から、多（おほ）く（く）の（の）工（こう）場（ば）が（が）集（あ）ま（ま）っ（つ）て（て）き（き）て、溝（みぞ）口（くち）から二（ふた）子（こ）にか（か）けて小（しょう）規（き）模（ぼ）な（な）工（こう）場（ば）地（ち）帯（たい）が（が）で（で）き（き）ま（ま）した（た）。

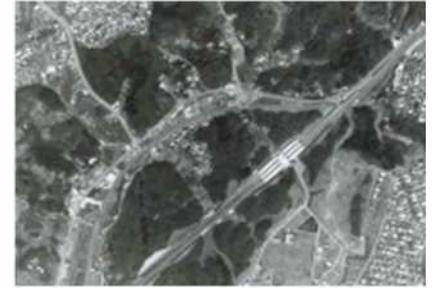
その（その）後（ご）、東（とう）京（きょう）や（や）川（かわ）崎（さき）南（なん）部（ぶ）の（の）大（だい）企（き）業（ぎやう）の（の）下（げ）請（けい）け（け）的（てき）な（な）役（やく）割（わり）の（の）中（ちゆう）小（せう）工（こう）場（ば）が（が）増（ふ）え、**「ものづくりのまち」**に（に）な（な）り（り）ま（ま）した（た）。現（げん）在（ざい）、特（とく）に（に）工（こう）場（ば）が（が）多（おほ）い（い）地（ち）域（いき）が（が）久（く）地（ぢ）、宇（う）奈（な）根（ね）、下（げ）野（の）毛（も）で（で）、日（にっ）本（ぽん）の（の）もの（もの）づ（づ）くり（くり）を（を）支（さ）え（え）て（て）き（き）ただ（ただ）け（け）で（で）なく（なく）、高（たか）い（い）技（ぎ）術（じゆつ）や（や）アイ（アイ）デア（だ）を（を）活（い）か（か）して（して）新（しん）しい（い）研（けん）究（きゆう）や（や）製（せい）品（ひん）の（の）開（かい）発（はつ）を（を）し（し）て（て）い（い）る（る）工（こう）場（ば）が（が）た（た）く（く）さ（さ）ん（ん）あ（あ）り（り）ま（ま）す（す）。



## ⑦新百合ヶ丘駅周辺

新百合ヶ丘駅周辺はビルやお店が建ち並び、たくさんの人々でにぎわっていますが、新百合ヶ丘駅ができたころは、ほとんどが山や畑でした。

「せっかく新しいまちをつくるのだから、すてきなまちにしたい！」とみんなが思い、まちのルールを決め、みんなで守っていくことにしました。ルールがあるので、街なみは統一されて、おしゃれなつくりになり、みんなに親しまれるまちになっています。



1974年の駅周辺の航空写真

みんなも駅周辺の建物を観察してみましょう。色合いが似ているように見えませんか。建物の高さが同じように見えませんか。どんなルールがあるのか調べてみましょう。



新百合ヶ丘駅周辺



新百合ヶ丘駅北側住宅街